

Dé-Sign (脱記号) 24 —記憶のマチエール 5 映像学科 大津はつね

Dé-Sign “24 La Matière de Mémoire #5” — Department of Imaging Art OHTSU Hatsune



2007年から制作している、戦争体験者に戦時中の記憶についてインタビューし、そこから触発されるイメージで映像を構成する『記憶のマチエール』シリーズ5作目。今回は、津軽出身の洋画家・佐野ぬい氏に、記憶とマチエール（絵肌）の関係、そして戦時中の記憶についてお話を伺った。

佐野ぬい氏は、「ブルー（青色）の画家」と称される有名な女流画家である。独自のブルー（青色）を基調とする抽象画を50年以上描き続けている。

佐野氏は、1932年青森県弘前市に生まれた。世界中で軍国化への足音が鳴り出した時期に幼少期を過ごした佐野氏は、太平洋戦争の始まりによって、それまでの色彩に満ちた世界が、「色褪せてモノクロの世界になった」と回想する。終戦を迎え、また再び色彩のある世界が戻ってきて、「これからは何でも出来るのだ」と自由を感じ、嬉しかったという。

更に、佐野氏は3.11以前と以降の東北地方についての日本人の意識変化を指摘する。

あの惨劇は言うまでもないが、地震と津波によって、むしろ東北は初めて＜まともに＞見てもらえたのではないかという。そして佐野氏は、「過去を絶対に振り返りたくない。前だけ見て、やることをやっていくだけだ。これからは、良い時代では無いと思うが、今日は昨日より良い絵が描けると信じて、毎日アトリエに入る」と語るのである。

本作の楽曲は、＜連歌・鳥の歌プロジェクト＞主催・音楽家の井上鑑氏が自ら演奏している。

パブロ・カザルスの『鳥の歌』は平和を希求する音楽の代名詞である。その『鳥の歌』を全国各地で有名アーティストが演奏し、未来へ歌い継いでいくため、様々な表現方法で全国各地で演奏している。
(公式サイト <http://thesongofbirds.com/>)

本作もまた、平和への願いと表現の自由があることの素晴らしさを伝える一助になれば幸いである。

スタッフ

出演：佐野ぬい (SANO Nui)、音楽（鳥の歌）井上 鑑 (INOUE Akira)

カメラ：大津はつね (OHTSU Hatsune)、田中綾子 (TANAKA Ayako)

翻訳：藤松 郁 (FUJIMATSU Iku)、監督：風間 正、制作：ビジュアル・ブレインズ

デジタル/カラー/HDV/18分/2013



